

凡百凡歌後拾遺集③

## 「はじめに」

新型コロナウイルスの発生からほぼ二年が経過しました。感染力パンデミックの勢いは止まらず、世界中の国々はコロナ対応を政策の一丁目一番地に掲げての悪戦苦闘が続きます。

我が国でも昨春の緊急事態宣言の発令により、様々な社会活動に行動規制が布かれました。自粛自衛生活を続ける中、この機会にわが人生を振り返るとともに、先の見通しを勝手に立て、左記の通り三ステージ三区分に見ました。

① 出生地池袋から、戦時中の集団疎開（長野県）・縁故疎開（福島県）を経て、吉祥寺在住独身生活時代の足掛け三十一年。

② 独立して結婚生活から母校早稲田大学定年退職（六十二歳）までの相模大野在住三十一年。  
③ 退職後、第二の職場として田中千代学園に六年間奉職する。その後年金生活に入り瞬く間に二十四年の歳月が過ぎ、昨夏父の物故年齢を越え八十六歳となりました。

還暦を期に始めた趣味の短歌三十一文字を一日一歌日課にして来ましたが、数合わせで三十一字と三十一字に肖り後七年、我欲の九十三歳をゴール目標に余生を励みたいと思う今日この頃です。

令和四年三月

詠・編者

「詠歌」

混迷のコロナパズルを積み直す

感染防御景気回復



〔自然詠〕

宇宙への夢膨らませ若人よ 有人飛行探索の旅

海行かば漂流物の軽石に 海底火山爆発遺物

頻発の異常気象にやり場なし 気温上昇森林火災

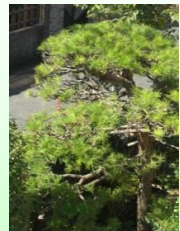
明るさを取り戻したい新年も 寒さ厳しく引きこもりがち

春を待つ紅白梅の三セット 残照浴びて花芽は固く

七夕も無情の雨に祟られて 土砂に埋もれる湯の街熱海

スズメバチ死骸転がる散歩道 肌寒さ増す秋の夕暮れ

芝草を踏みしめ西陽背に受けて 秋の深まり素肌にしみる



## 〔社会詠〕

バイデン氏就任式は厳戒下  
国際秩序結束が鍵

Q7対立構図鮮明に  
グローバル化の途未だ遠く

繁栄をもたらさずはすの民主主義  
アフガン撤退米負け戦

コロナ禍後喫緊課題法整備  
混乱続く国際社会

尖閣が洋上遥か翳みけり  
米中覇権ボーダーライン

国防が自衛の日本増す脅威  
中華台湾半島事情

勇断が問われる日本透けて見え  
東京五輪秋総選挙

分断が暴動と化す民主主義  
政治の行方目が離せない



問われない咎められない民主主義 為政者不信誰のためにぞ

見解が分かれ紛糾後手を踏み 政治決断無策を露呈

政策はボトムアップを重視して 官邸主導脱皮を図る

一言で民意とは何縞模様 総意を得るに道程遠く

秋の陣現職総理退陣に 潮位高まる永田町街

欠かせない景気変動バロメータ 基準地価格株式相場

鰐の口大きく開けた状態で 警鐘鳴らす財政破綻

綻びは富の偏在隠せない 格差が固定✕字経済



楽ですよ電子書籍に街の声 紙をめくるかタッチが先か

戦後から四分の三世紀経て 待ったを掛けるコロナウイルス

変異株新型コロナウイルスの 感染猛威歯止めかからず

「マン防」がいつの間にもやら浮上する 新たな懸念異変ウイルス

リバウンド数値が微妙異変株 年末年始目が離せない

コロナ禍はなお覚めやらぬシナリオに戦後最悪最大ピンチ

ウイズコロナ東京五輪パラリンと 耐えがたき耐えカウントダウン

老朽化向こう十年見通して ライフラインに止む無き出費

世の中は諸手を挙げてデジタル化 感性情緒置き去りにして



民意として誹謗中傷止めどなし ネットに嵌まるデジタル社会

正直に生きた証を記録する あつてはならぬ文書改ざん

寄せ集め経済対策繰り返す 政策思想なき給付金

ハッカーが患者カルテを破壊する 病院機能システムダウン

オミクロンコロナウイルス変異型 外国人の入国待った

コロナ株不気味蔓延異変種が 出口は遠く心塞がれ

ワクチンは感染症の救世主 医療従事者先行接種

巣籠の高齢者群動き出す ワクチン接種進捗効果





## 〔自戒詠〕

終戦の教訓よもや忘れまい

戦禍コロナ禍重ね合わせて

思想から史観は生まれ育まれ

思想無くして史観は立たず

当然の事ができないコロナ禍に

不図蘇える初の海外

日常に時間係数欠かせない

人類社会共有資本

トリアージ避けて通れぬ道程も

防衛手段欠かせぬ武器に

流行語させていただく本意とは

責任逃れ不遜な敬語

真実は語るべくして曲げられる

事実の一つ曲げられぬもの

世の中は合理化ばかり走りすぎ

心のゆとり情緒置き去り



掛け替えのない人生の送り方 暦一年シーソーゲーム

お互いに行動規範見直そう 富の偏在資源の枯渇

生かされたわが人生を生きて来た その実感を味方に余生

人生の限界効用ありやなし 一般理論説くも空しく

護持回向ためらいもなく一筋に 浮世の別れ近づく予感

聞いてみて分からなければ行ってみる 行動範囲狭まる中で

夢見して躁鬱社会彷徨いぬ 目覚めの朝にわれ取り戻す

芝草は踏みしめてこそ付加価値が 自身と草の相乗効果

老齡化方向音痴度が進む 昨日の道が今日迷い道



## 〔家族詠〕

老身は不治の病に晒される  
夫唱婦隨の健康カルテ

台所お勝手管理主婦業の  
味匙加減委ねる余生

難しいコミュニケーション取り方が  
三者三様娘婿孫

娘婿庭の手入れに余念なく  
散水栓に心癒され

春便りうれしいラインに目を覚ます  
孫の作文新聞記事に

敬老の日また朗報スマホから  
孫の褒賞徳島便り

マジックか白内障の手術台  
眩しい光メリーゴーランド

お隣の愛犬ララは優れもの  
癒しの世界教えてくれる



## 「交友詠」

深まりて熟す柿の実その庭の

主亡くして四季は移りぬ

運命の糸につながれ今がある

幸あれ先のあの世への途

もう二度と応答のない語り口

悔やみて余りあるあの仕草

地平線水平線に眼を投ず

西空遠く舞うシルエット

いつの世も憂う心は尽きぬとも

癒し癒され育む心

人脈は瀬踏み足踏み浮き沈み

コロナ汚染に藻屑と消ゆる

パソコンと携帯電話手放せず

いざれ亡き身の始終を語る



〔余暇詠〕

後手後手の東京五輪無観客

巷に不満不安抱えて

様々な思いちりばめ閉幕の

五輪パラリン立秋の夜

山なりのラリーが続く車椅子

無心のテニス親しみ覚ゆ

隣接地相模原市と町田市は

住めば都ぞわが家の特区

散歩道慰霊塔前手を合わす

先の大戦英霊の郷

足腰を鍛えるために芝草を

しかと踏みしめ公園散歩

空しくも熱き心と淡い夢

閑古鳥啼く散策歩道



立春もマスク姿の仲間たち      コート参集健在なりて

二年ぶり「ねんりんカップ」勢ぞろい      コートの熱気マスクに包む

立冬に室内プール再開も      水重くして浮力がつかず

直向きに松山英樹初快挙      春オーガスタ二〇二一

二刀流復帰大谷大車輪      ベーブルースに並んだその日

全米の後全豪オープンに      二度目の制覇大坂なおみ

3口麻雀アプリ優れもの      一人麻雀軽快タッチ



郡司直智（ぐんじ・なおち）

短歌集

『東西二大国讃歌集』一九九五年

『わが早稲田アデイザデイズ』一九九七年

『母タカ遺稿短歌集』二〇〇五年

「テニス短歌」二〇一二年

「わらべ会（歌日記）アデイ・ザデイズ」

二〇一八年

「凡百凡歌」第一集〜第二集（一九九八年〜二〇

一九年）

「凡百凡歌後拾遺集」①②（二〇二〇〜二二年）

凡百凡歌後拾遺集③

詠・編者 郡司 直智

初版発行 令和四年三月一五日